

全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(確認)→Act(改善)の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。



青森県 JA十和田おいらせ

野菜産地の維持・拡大へ、 機械導入の助成を実施

P JA十和田おいらせでは、農業従事者の高齢化が進む中、全国有数のニンニク産地を維持・発展させ、農業者の所得増大や農業生産の拡大を進めるため、生産費の抑制と農作業の省力化に向けた取り組みを進めています。2019年度から21年度まで、農業機械の導入を進めるため、JA独自の産地拡大対策事業としてニンニク収穫機・植え付け機、ドローン防除機を対象に助成を行いました。植え付け機の導入では作業員の数を半分以下に減らせたなどの効果も上

げました。

支店長や営農指導員らが組合員に出向く営農指導「担い手パワーアップ・アクション活動」(以下アクション活動)では、組合員から導入助成に申し込みたいという声が多く、22年度から24年度までの3年間事業を継続することにしました。助成対象の機械の品目を追加してほしいという要望もあったことから、JAはこれまでの助成対象の農機に加え、新たに生産面積拡大につながるネギ収穫機や、播種の際の省力化に役立つ自動操舵システムなどを助成対象としています。

D JAでは、アクション活動や広報誌「アグレッッシュ」などを通じて、組合員の要望を反映した機械導入の助成などの産地拡大対策事業を継続的に周知・推進します。

C JAは、アクション活動による訪問や対話の活動を22年度にのべ5,075回実施しました。23年度は実施回数目標を6,300回に定め、組合員との対話活動をさらに充実させ、組合員の声を収集する予定です。

A JAは生産拡大への意欲がある組合員の意見や要望を取り入れて、導入を助成する機械の選定や、計画の見直しを必要に応じて行い、事業に反映させたい考えです。

機械導入への助成実績・目標

2019年度～21年度助成実績

- ・ニンニク収穫機 7台
- ・ニンニク植え付け機 13台
- ・ドローン防除機 1台

22年度～24年度助成目標(新規分)

- ・ニンニク収穫機 10台
 - ・ドローン防除機
 - ・ニンニク植え付け機 5台
 - ・ネギ収穫機
 - ・自動操舵システム
- 計15台

JAが導入助成した
ニンニク収穫機

